



3star

東広島市立原小学校
第3学年 学級通信
令和6年 11月8日



参観日・学級懇談会ありがとうございました！

道徳「いただいた命」を学習して

11月1日（水）の道徳科の時間に、命の大切さについて考えました。「いただいたいのち」のお話は、主人公のゆきさんが血液のがんになってしまい、お母さんやクラスの友達の励ましを受けたり、周りの人から血液を提供してもらったりしながら苦しい治療に耐えて、10か月後、元気に学校に行けるようになったというお話です。授業では、お母さんがゆきさんに言った「いただいたいのち」という言葉はどういう意味なのか考えました。

子ども達は、娘の命が助かってよかったというお母さんの喜びやほっと安心した気持ちに共感したり、命を救うために支えてくれたいろいろな人に感謝しなければいけないという気持ちに気付いたりすることができました。

授業の終わりには、自分が病気をした時におうちの人に看護してもらったり病院の人に治療してもらったりしたことを思い浮かべ、自分たちの命も多くの人に支えられているということに気付きました。

「命は1つ」「命は大切」と、頭では分かっているけど、ふだんは命のことを意識していないかもしれませんが、心明るく、元気に毎日を過ごしているのは、いろいろな人の支えがあることをこれからも折にふれて話していきたいと思います。

～子どもたちの記述より～

- ・わたしが病気をした時に、家族の人が一生けんめいかん病してくれたのでうれしかったです。
- ・命は1つだけど、いろいろな人にささえられているんだなと思いました。
- ・家族やいろいろな人のおかげで、元気にすごせているから、かんしゃしたいなと思いました。

